

青岸渡寺三重塔

『那智参詣曼荼羅』に登場する建物の中でも特に目を引くのが三重塔です。500年前に制作されたこの絵に描かれている他の建物と同様、この三重塔も戦国時代（1467-1603）の内戦のさなか、1581年に焼失しました。しかし、他の建物とは異なり、この塔はその後すぐには再建されませんでした。1972年になってようやく青岸渡寺の境内に建てられまた新しい三重塔は、現在、この地域で最も有名な見どころのひとつです。

三重塔の上層階からは、北に那智大滝を一望できます。しかし、写真を撮る人の多くは、この塔を南側から見た風景も撮影し、滝と並ぶ朱塗りの塔の印象的な姿をフレームに収めます。

彫刻と絵画

三重塔には、地上階（慣習的に3階のうちに数えられない）より上の各階に異なる仏の像が安置されています。1階にあるのは、かつて那智大滝で崇拜されており、那智の滝にまつわる多くの伝説に登場する不動明王の像です。2階には西方の極楽浄土に住まう阿弥陀如来の像があります。那智大滝を望む最上階の3階には、慈悲の菩薩である千手観音の像が祀られています。仏教では、この滝の神である飛瀧権現は観音菩薩の化身とされています。

現代の仏教壁画も塔の各階の壁を飾っています。

- 1階** 熊野那智極楽曼荼羅（米良道博）
- 2階** 聖衆来迎図（林屋坦養）
- 3階** 金剛界曼荼羅（林家拓翁）